

## イノブタ農場に対する総合支援指導

紀南家畜保健衛生所  
○筒井視有 柏木敏孝

### 【背景・目的】

管内 A 養豚場は、平成 25 年に紀南地方の特産品であるイノブタの生産・加工・販売を目的に設立され、平成 26 年に地域経済循環創造事業を活用し豚舎の増築を行った。当農場は、繁殖母豚 80 頭による一貫経営を行っているが、経営者および従業員の畜産経験が乏しく、設立当初より飼養管理に多くの問題を抱えていた<sup>1)2)</sup>。当所および関係機関の指導により、改善傾向が認められていたが、近年、離乳豚の斃死数増加や哺乳豚の発育不良が認められるようになった。

そこで、問題解決に向けた総合的な指導を行い、良好な結果が得られたのでその概要を報告する。

### 【方法】

離乳豚の斃死状況を確認するため、離乳豚の斃死率・飼育密度、繁殖母豚の交配頭数の調査を行った。

離乳豚舎で密飼区(2.9 頭/m<sup>2</sup>)および適正区(1.5 頭/m<sup>2</sup>)を設けた飼育試験を実施し、体重および育成率の調査を行った。

哺乳豚の発育状況を確認するため、母豚の飼料給与状況調査・血液生化学的検査、哺乳豚の育成率および離乳時体重の調査を行った。

当農場へは、平成 27 年から当所による重点指導を行っており、伝染性疾病の発生状況、母豚・肥育豚の発育状況、飼料給与状況、畜舎内環境、発酵床の状況等を継続して調査している。また、平成 27 年 10 月からは、(公社)畜産協会わかやま・当所・畜産試験場・町役場・県振興局・県庁関係各課が連携した経営改善チームによる総合的な指導も併せて行っている。

### 【結果】

離乳豚の斃死率は以前より高い傾向にあったが、平成 28 年 1 月に 45 % と急激に増加し<sup>3)</sup>、飼育密度は 4 頭/m<sup>2</sup> と非常に高い状況だった<sup>4)</sup> (図 1)。これは、農場内の各担当者間のコミュニケーション不足や、出荷頭数増を目指す経営者の無計画な交配(29 頭/月)が大きな要因であった(図 2)。

当農場における離乳豚舎の適正飼育頭数は 200 頭であり、交配頭数の改善や離乳豚舎の増築について指導を行ったが、経営者・従業員ともに密飼いによる悪影響を理解できず、密飼いは改善されなか

った。そこで、離乳舎における飼育試験を実施したところ、日増体重は密飼区 0.27 kg/日に対し適正区 0.33 kg/日、育成率は密飼区 48.3%が適正区 100%と大きな差が認められた（図 3,4）。試験結果および経営改善チームによる継続した指導により、現在は飼育密度を 2 頭/m<sup>2</sup>以下へ改善している。また、簡易離乳豚舎の購入や豚舎の改築により、現在の離乳豚飼養可能頭数は 300 頭と増加している。

当農場は設立当初、自家生産の低品質・未調整エコフィード（低エコ）を全頭に給与しており、母豚の発育不良・斃死、哺乳豚の発育不良が多発していた。平成 27 年より給与飼料の改善指導を行った結果、平成 28 年より全てのステージの母豚および 30 kg までの離乳豚に対して配合飼料を給与し、母豚の繁殖成績や哺乳豚の発育改善が認められていた。しかし、平成 28 年 7 月より、哺乳豚の育成率が急激に低下し（図 5）、農場への聞き取りを行った結果、配合飼料給与により飼料コストが増加したため、経営者が母豚飼料を配合飼料から低エコへと変更したことが確認された。また、離乳時の体重は 11.8 kg から 5.8 kg と大きく低下し<sup>5)</sup>（図 6）、母豚の血液生化学的検査結果も、低エコ給与以降、T-Cho、TP、Alb が著しく低下していた<sup>6)</sup>（表 1）。これらのデータ及び低エコ給与による出荷頭数の減少および収入減について説明した結果、現在は配合飼料の給与を再開しており、離乳時の体重も 11.3 kg と改善している。

#### 【考察】

今回、当農場の経営者および従業員の経験・技術・連携不足により、指導者側の想定外の問題が発生することとなった。しかし、問題点の数値化や検証、農場内における各担当者間のコミュニケーション強化、農場と指導者のコミュニケーション強化を図ることで、経営者および従業員の理解力の向上が得られ、早期の問題解決を図ることが可能となった。また、関係者が定期的に継続して意見交換を行う環境が整い、未然に問題を防ぐ体制も整いつつある。

現在当農場では、関係機関の指導により水分含量の低減や CP の上昇等、肥育用エコフィードの改良が図られている。また、いわゆる「霜降り豚肉」を生産する技術も積極的に取り入れており、イノブタ肉の更なる改善が図られ、更なるブランド力強化が期待されている。

今後も引き続き関係機関と連携し、当農場の生産性向上を目指した指導を行い、紀南地域の産業振興に寄与してまいりたい。

#### 【参考文献】

1) 馬上ら：事故率軽減のための豚の施設管理・飼養管理・衛生管理改善指導 平成 23 年度新潟県家畜保健衛生業績発表会集録

- 2) 山本ら：子豚の垂直・水平感染防止と飼養管理の改善を併用した総合的疾患対策 家畜診療 56 巻 5 号 (2009)
- 3) 石川ら：離乳子豚に多発する疾患とその対策 日本豚病研究会報 40 (2002)
- 4) 川島ら：管内養豚場における発育不良豚の感染症モニタリング 京都府南丹家保平成 20 年度調査試験
- 5) 嶋澤ら：バレイショ混合サイレージの給与が肥育豚の発育と血清生化学成分に及ぼす影響 日本暖地畜産学会報 52(1) (2009)
- 6) 佐々木ら：代謝プロファイルテストを活用した母豚の繁殖パワーアップ作戦 鳥取県畜産技術業績発表会 (2005)